



日本語版

# Canon TLb



使用説明書

キヤノンTLbは、撮影に最も必要な機能を優先して採用した、キヤノン高級一眼レフカメラシリーズの普及型です。

ボディ性能は高精度で定評のあるキヤノンF-1、EF、FTbの技術を基礎としており、またシャープな画像をつくるFDおよびFLレンズシリーズのすべての交換レンズが使用できます。また、アクセサリ類も特殊なものを除いてはF-1、EF、FTbと共用でき、一般撮影のほかに接写、拡大など広い範囲で撮影が楽しめます。TLbの性能をフルに発揮し、すばらしい写真を作るために十分ご活用ください。

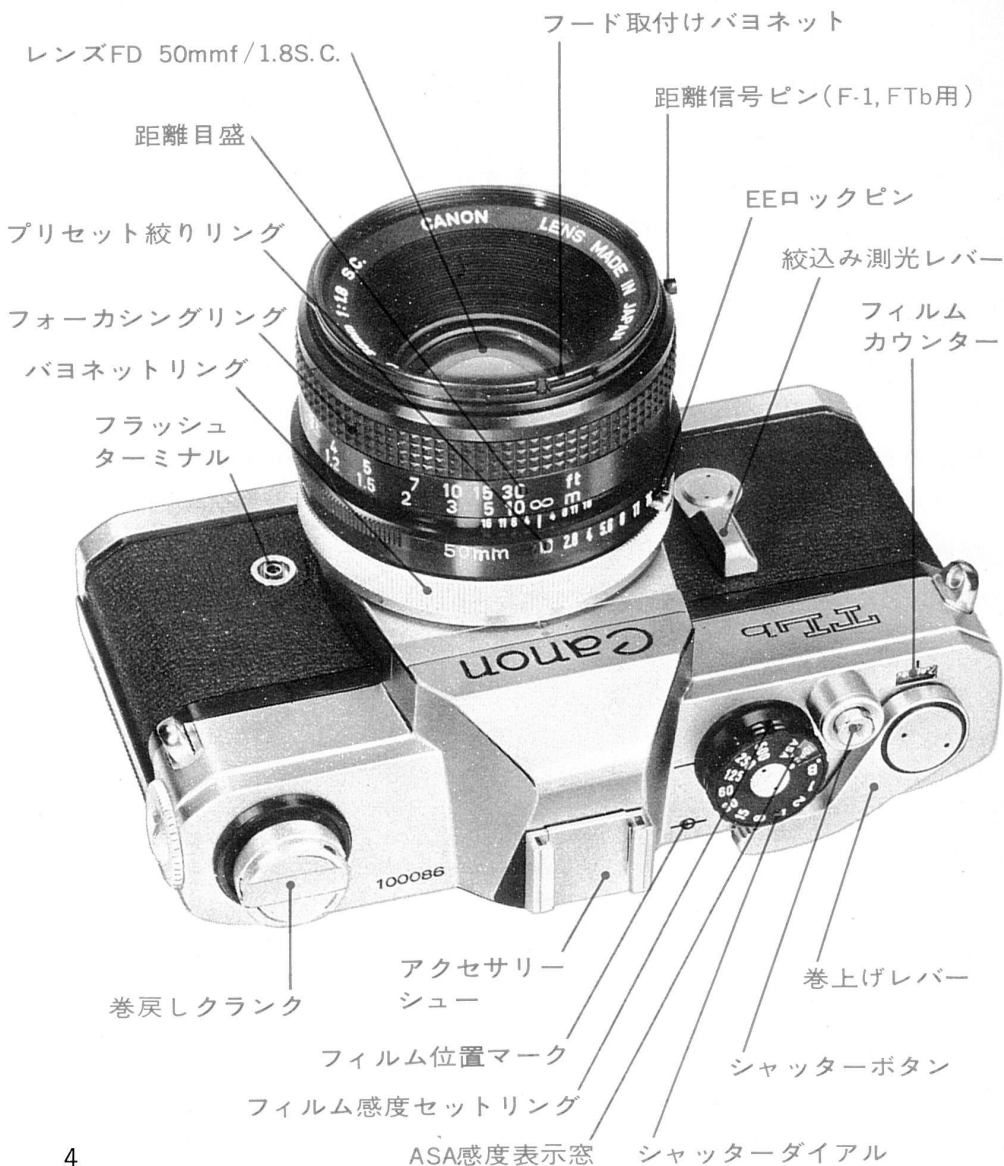
※都合により製品の外観デザインの一部を変更することがあります。

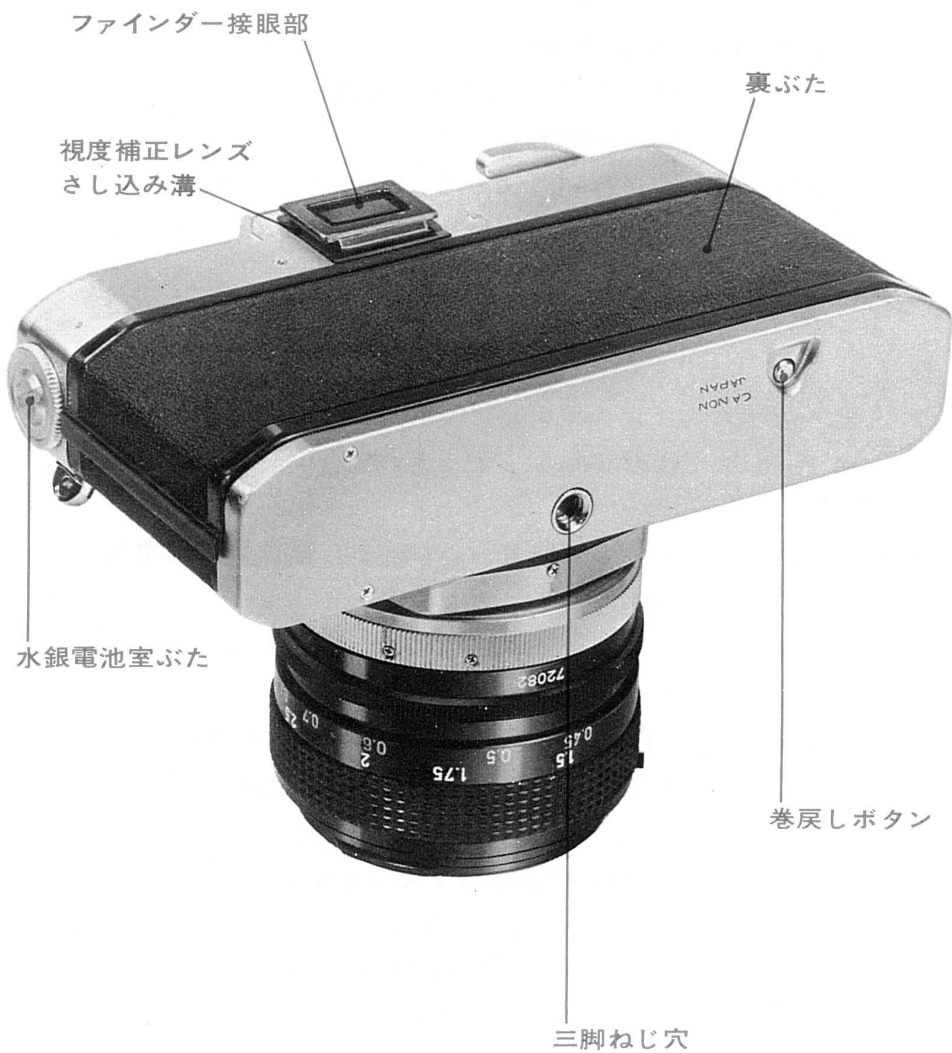


## 目 次

各部名称	4
主要性能	6
水銀電池をつめます	8
フィルムをつめます	9
フィルムのASA感度をセットします	12
ピントを合わせ絞りを決めます	13
シャッターダイヤルの“B”について	16
二重露出について	17
レンズ交換について	18
マニュアル絞り	19
絞込み測光	20
フラッシュ撮影	21
整備と環境と事故への対策	22

# 各部名称





## 主要性能

- 型 式：35mmフォーカルプレーンシャッター式一眼レフレックスカメラ
- 画面サイズ：24mm×36mm
- レ ン ズ：開放測定 FDレンズ群  
絞込み測光 FLレンズ群
- 標準レンズ：FD50mm f/1.8 S.C.
- ファインダーアタッチメント：アングルファインダーA<sub>2</sub>, B,  
マグニファイヤーS 視度補正レンズ4種  
(+1.5, 0, -2.5, -4ジオプター ……標準は-1.2  
ジオプター)
- ピントガラス：フレネルレンズ使用, マイクロプリズム距離計付
- 視野倍率：標準50mmレンズ∞遠の場合0.85倍 視野は実画面  
の94%
- 視野情報：メーター指針および追針, 測光範囲外警告マーク,  
絞込み測光用定点
- ミ ラ ー：ノンショック クイック リターン ミラー
- レンズマウント：バヨネット式マウント
- 取付け機能：FDレンズ 開放測光, 自動絞り連動  
FLレンズ 絞込み測光, 自動絞り連動  
R レンズ 手動絞込み測光
- シャッター：B・1秒～ $\frac{1}{500}$ 秒のフォーカルプレーンシャッター
- シャッターダイヤル：一軸不回転式, 倍数系列, 等間隔目盛,  
60はX接点, ASA フィルム感度目盛
- 使用フィルム感度：ASA25～2000
- 露出調節機構：シャッタースピード, フィルム感度, 絞り値に  
連動する追針式T T L開放測光機構, CdSをペン

タプリズム後方に配置した中央重点平均測光方式  
FDレンズの開放F値自動補正機構付き、測光レ  
バーにより定点式絞込み測光可能

露出計連動範囲：ASA100でEV3.7(f/1.8,  $\frac{1}{4}$ 秒)～EV17(f/16  
 $\frac{1}{500}$ 秒)

メーター用電源：JIS(日本工業規格)H-D型1.3V水銀電池1コ  
使用

米国製 MALLORY PX-625

EVEREADY EPX-625に相当

シンクロフラッシュ：FP接点およびX接点、タイムラグ自動  
調整式

ボディ前面にJIS B型ソケット

同調範囲：FP級バルブ  $\frac{1}{500}$ ～ $\frac{1}{125}$ 秒,  $\frac{1}{30}$ 秒以下

スピードライト  $\frac{1}{60}$ 秒以下

M・MF級バルブ  $\frac{1}{30}$ 秒以下

巻上げレバー：1作動174°回転レバー

小刻み巻上げ可能

フィルム装填：多スリットスプールの採用による迅速簡易装填

フィルム巻戻し：巻戻しボタンおよびクランク操作、巻戻しボ  
タンは自動復帰式

二重露出：巻戻しにより可能

フィルム枚数計：自動復帰順算式

大きさ・重量：144×93×43mm

680g(ボディのみ)

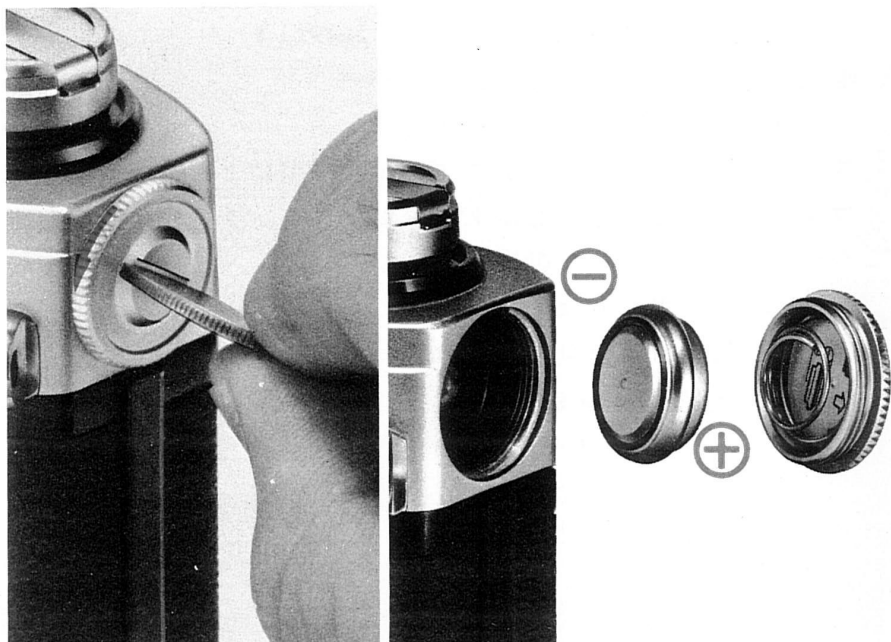
## 1. 水銀電池をつめます

水銀電池蓋を硬貨などを利用してはずし、蓋の裏側の図のようにつめてください。

1個の水銀電池で1年間位使用できます。

注) 水銀電池に汗や指紋が付着しますと、接触不良の原因となります。汚れた時は乾いた布で拭きとってください。

注) カメラを使用しない時、この電池は抜き取っておいてください。電池の入れっぱなしは電池漏液により故障の原因となります。



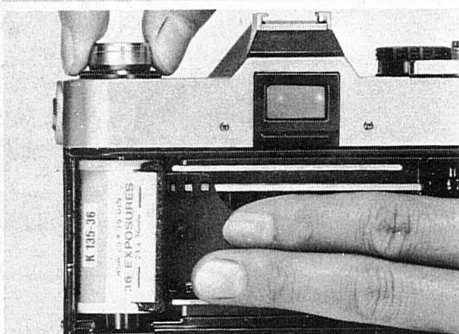
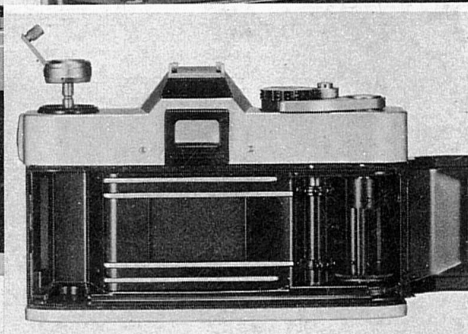
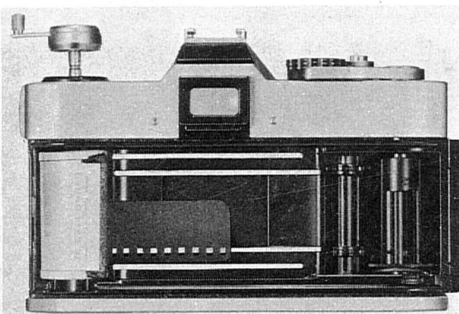
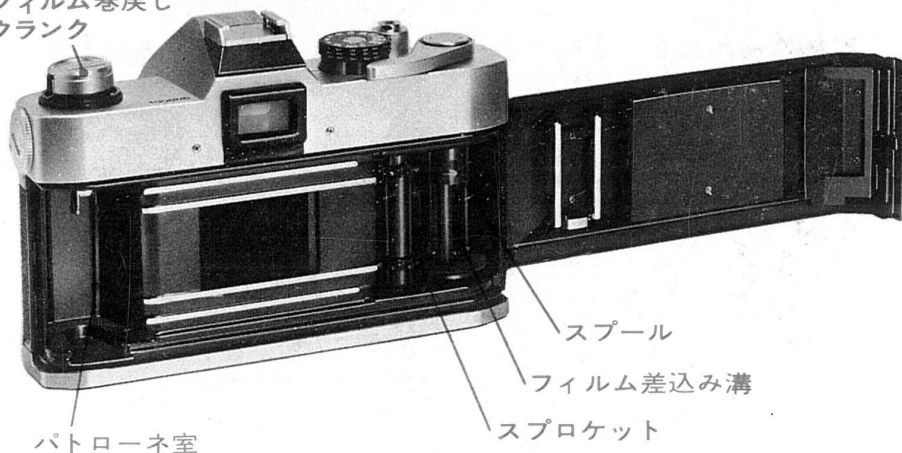


## 2. フィルムをつめます

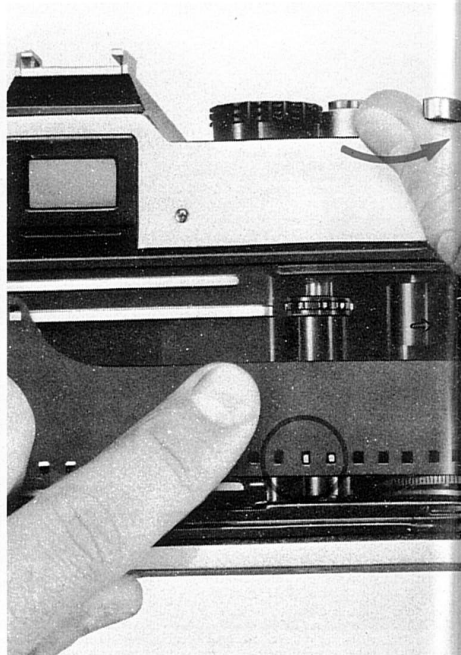
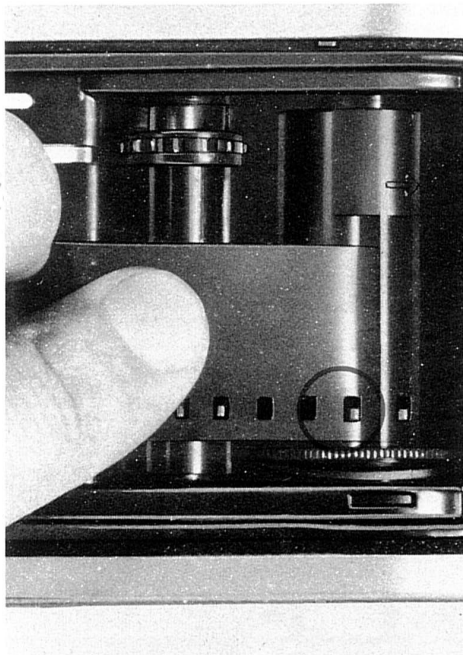
- 巻戻しクランクを引上げると裏蓋が開きます。

フィルムを写真のように入れた後、巻戻しクランクを押下げてパトローネを固定します。

フィルム巻戻し  
クランク



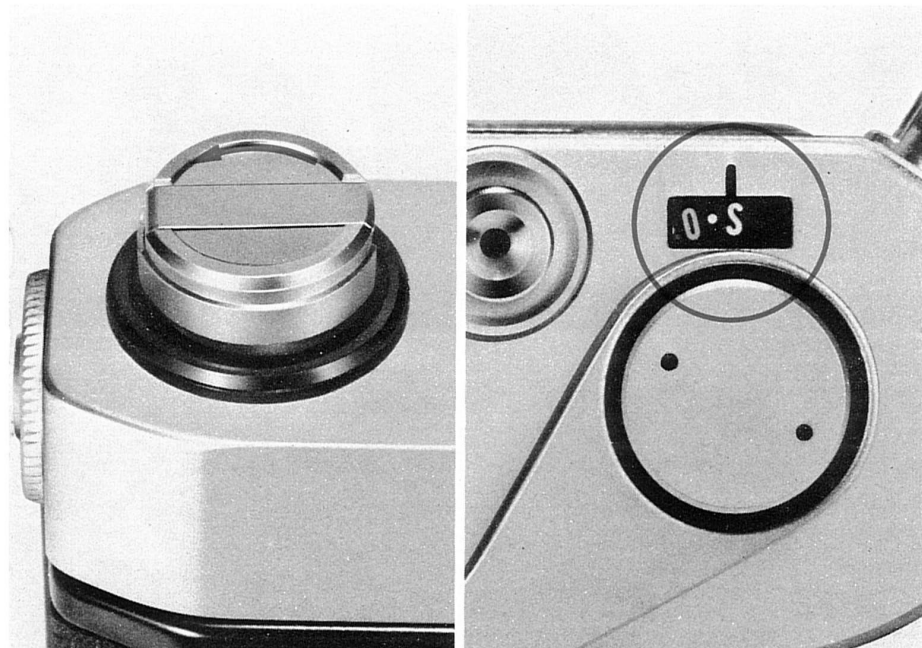
- フィルムの先端（リーダー部）を引出し、スプールのスリットに差込み、巻上げレバーを回してスプールにフィルムを巻きつけます。巻上げレバーを一杯に回したら、シャッターボタンを押してシャッターを切り、再度巻上げます。スプールに1～2回フィルムが巻きついたことを確認してから、裏蓋を閉じます。



注) フィルムをスプールのスリットに差込んだ時、スプールの爪にフィルムの穴(パーフォレーション)が引掛っていることを確かめます。

注) 巻上げレバーを回してフィルムを巻上げる時に、スプロケットのギアがパーフォレーションにはまっていることを確かめます。

注) 裏蓋を閉めてから巻戻しクランクを起し、矢印の方向に軽く止まるまで回しておきます。次に巻上げレバーでフィルムを巻上げ、シャッターを押す操作を、フィルムカウンターに0が出るまで繰り返しますが、この操作中に巻戻しクランクが回れば、フィルムが確実に送られている証拠となります。



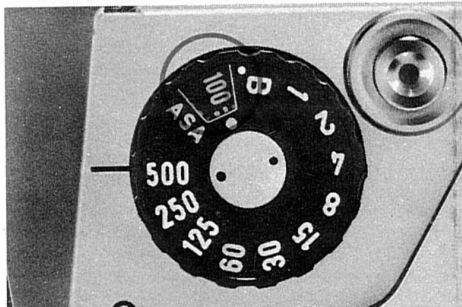
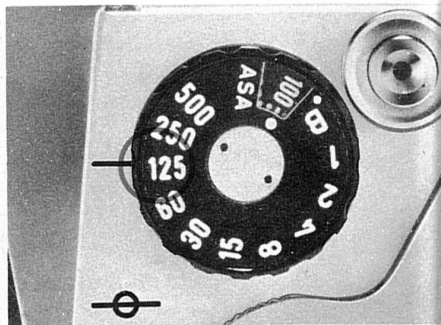
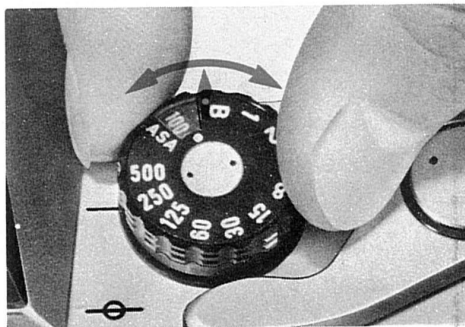
### 3. フィルムのASA感度をセットします

シャッターダイヤルの周囲のリングを持上げて回すとASA感度表示窓の数字が変わられます。使用フィルムの箱に表示されているASAの数字に合わせてください。

数字の間の点は下記の通りです。

ASA25    <sup>(32)</sup>   <sup>(40)</sup>    <sup>(64)</sup> <sup>(80)</sup>    <sup>(125)</sup> <sup>(160)</sup>    <sup>(250)</sup> <sup>(320)</sup>    <sup>(500)</sup> <sup>(640)</sup>  
          ·    ·    ·    ·    ·    ·    ·    ·    ·    ·    ·    ·    ·    ·    ·    ·    ·    ·  
(1000) (1250) (2000)  
          ·    ·    1600    ·

ASA感度のセットが終わったら、写す条件に応じてシャッタースピードを決めます。晴天の屋外なら $\frac{1}{250}$ 秒、曇天ならば $\frac{1}{60}$ 秒、明るい室内ならば $\frac{1}{30}$ 秒位です。



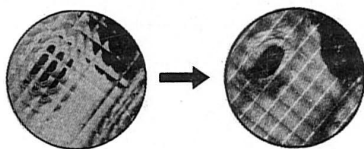
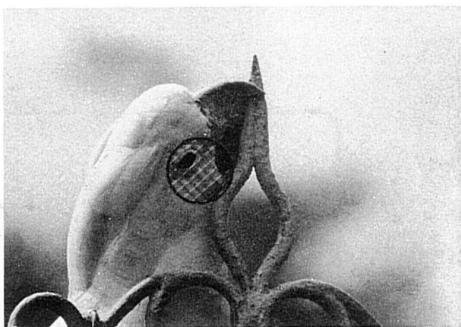
#### 4. ピントを合わせ絞りを決めます

ファインダーをのぞきながらフォーカシングリングを回して、真中の丸い部分のギザギザ（マイクロプリズム距離計）が消えるか、または全体がスッキリ見えるようになればピントが合ったことです。

ファインダーの画面の右に露出計指針と絞りリングに連動する追針が見えます。

絞りリングを動かして振れた指針に追針の中心を合わせます。指針はシャッターダイヤルの回転と連動しますので、上限（露出オーバー警告マーク）と下限（露出アンダー警告マーク）との間に入るように、シャッターダイヤルを回してください。

指針と追針が合致した時が適正露出です。ピント合わせ、適正露出の決定ができましたら、シャッターボタンを押して撮影をします。



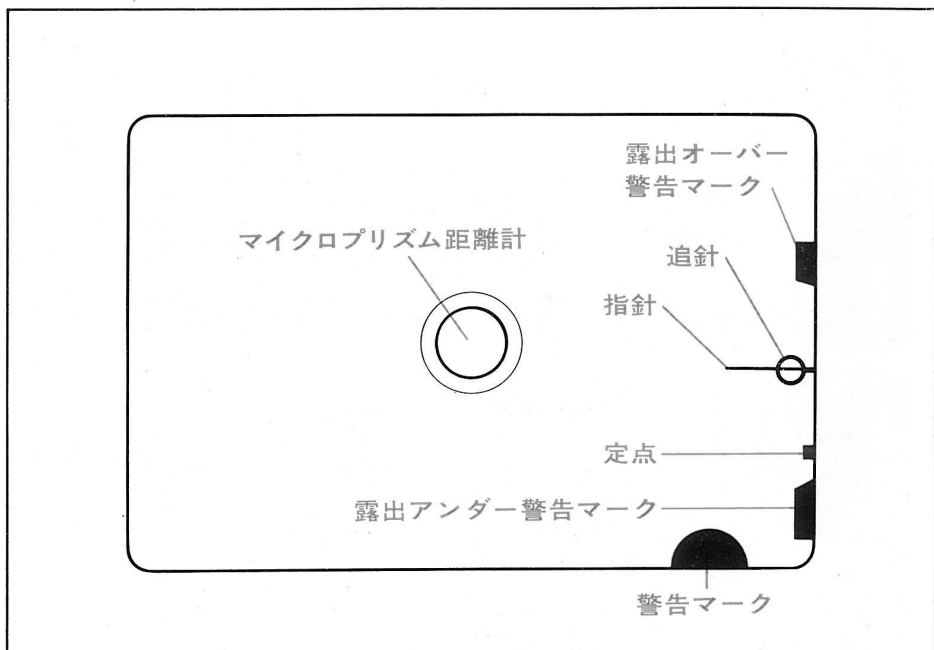
ピントがはずれている

ピントが合っている

注) 追針の輪の径は明るさが1絞りに相当します。通常は輪の真中で合わせます。

注) 露出計の連動範囲には限度があります。このカメラの場合、次の組み合わせより遅いシャッタースピードの場合には測定範囲外ですから、測定した露出は正確ではありません。なおこの場合にはファインダー内に赤い警告マークが出ます。

A S A	25	50	100	200	400	800	1600
シャッタースピード	1秒	1/2秒	1/4秒	1/8秒	1/15秒	1/30秒	1/60秒



詳しい使い方

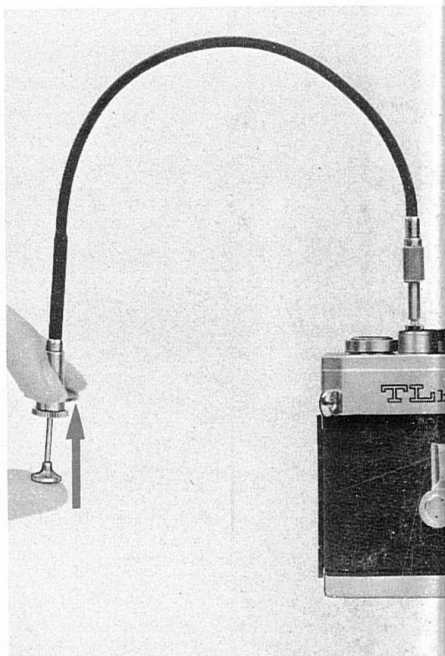
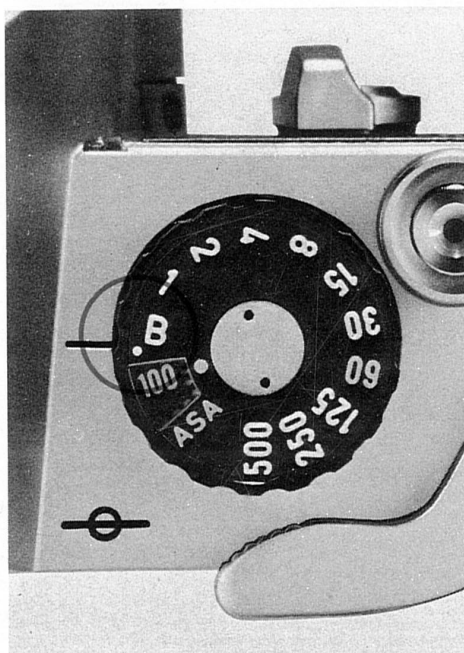


## 1. シャッターダイヤルの“B”について

シャッタースピードの中のBはバルブの意味です。Bバルブはシャッターボタンを押している間だけシャッター幕が開き、押している指を離すとシャッターが閉じます。花火や夜景の撮影時に使用し、通常はケーブルリリースを併用します。

このケーブルリリースはシャッターボタンにねじ込んで使用します。

長時間露出をする場合にはタイム付のリリースを使用し、バルブシャッターとタイムとの併用でタイム露出（長時間露出）を行ないます。

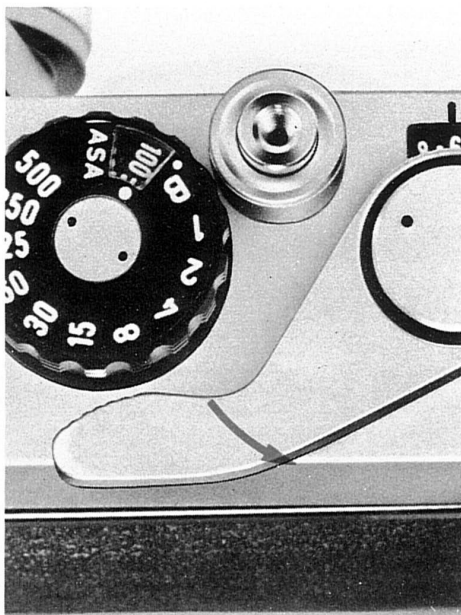
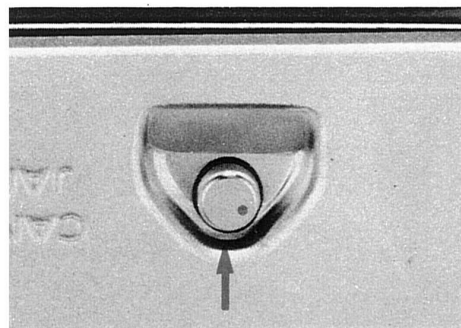




## 2. 二重露出について

二重露出の手順は次の通りです。

1. 1回目の露出を行なった後
2. 巻戻しボタンを押し、巻戻しクランクでフィルム1枚分を巻戻します。この1枚分は巻戻しボタンについている赤点の $\frac{3}{8}$ 回転 ( $315^\circ$ ) に相当します。
3. 巻上げレバーで再びフィルムを巻上げ
4. 2回目の露出を行います
5. この場合の各露出値は普通2回の合計が適正露出になるよう、各々の露出は1絞りずつ絞った露出値で行います。



### 3. レンズ交換について

このTLbはF-1やFTbで使用されている高性能FDレンズやFLレンズがすべて使用できる利点があります。

レンズの交換は次のように、ごく簡単に行えます。

1. バヨネットマウントの赤点がカメラボディの赤点と合うまで回わせば、レンズは簡単にはずせます。
2. 交換レンズをつける時は、レンズを押しつけ気味にしながらかバヨネットマウントを回わして装着します。
3. レンズをはずしたままで絞り作動の確認をする場合は、マウントリングのかけのマウントロックピンを先端のとがったピン状のもので押しつけたままレンズのバヨネットを回わします。その後で自動絞りレバーを回わせば、その時点の絞り値まで絞ります。



## 4. マニュアル絞り

普通に使用している時には、FDレンズは自動絞りでシャッターを押した瞬間だけ設定した絞り値まで絞られます。

しかし、中間チューブなど自動絞り機構をもたないアクセサリーを使用する時にはレンズをマニュアル絞り（手動絞り）にセットする必要があります。

方法は次の通りです。

1. レンズをカメラから外します。
2. 自動絞りレバーを矢印の方向に回わせればセットされます。ただしFD50mm f/1.8の場合のみ自動絞りレバーを手動ロックレバーの方向に押しおいて、手動ロックレバーをLの方向にすればセットされます。
3. レンズをボディまたは中間チューブなどのアクセサリーにセットします。レンズを外した状態では手動絞りによる絞り効果を見ることはできませんが前頁3の操作で自動絞りレバーを回さずに確認できます。



自動絞りレバー

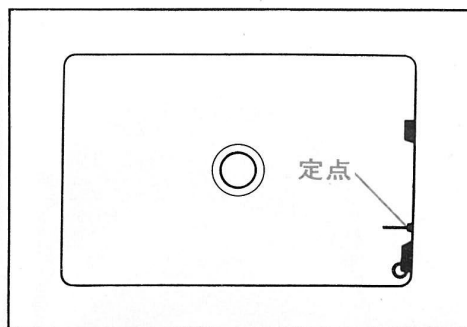
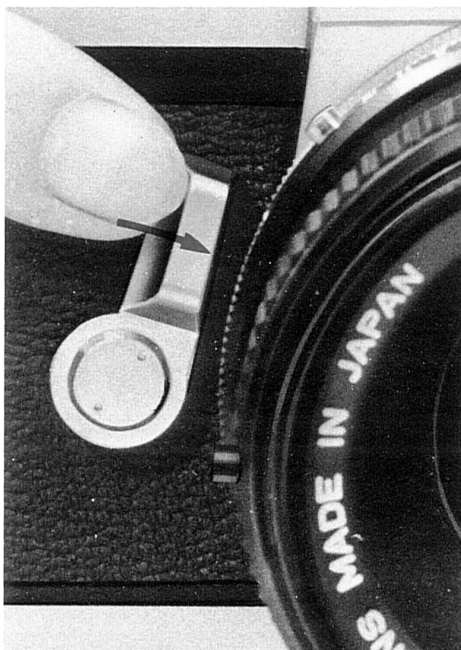


手動ロックレバー

## 5. 絞込み測光

このTLbは、通常はファインダーの中央部に重点を置いた平均開放測光です。FDレンズを使用する時は必ず開放測光で行ないませんが、FDレンズ以外のFLレンズを使用した場合やアクセサリ（ベローズFLやFLマクロレンズのライフサイズアダプター）を使用した場合に、絞った状態での露出が知りたい時には絞込み測光もできます。

1. カメラを被写体に向けてファインダーをのぞいたまま絞込み測光レバーを矢印の方向に倒します。
2. ファインダー内の露出計の指針が定点に合うように絞りリングまたはシャッターダイヤルを操作します。定点に指針が合えば適正露出です。絞込み測光時には追針は下方に隠れます。
3. 自動絞りレバーのない手動絞りレンズ（フィッシュアイ7.5mmやTS35mmレンズなど）を使用する場合は、絞込み測光レバーを倒さず、絞りリングの操作だけで定点に合わせます。



## 6. フラッシュ撮影

スピードライトまたはフラッシュ発光器のプラグをカメラ前面のフラッシュターミナルに差し込んで使用します。アクセサリシューには直結接点は組込まれていませんから、直結接点方式のスピードライトは使用できません。

シャッタースピードは下表のようにセットします。

タイプ		同調するシャッタースピード
フラッシュ	FP級	全シャッタースピード ( $\frac{1}{60}$ 秒を除く)
	M級	$\frac{1}{30}$ 秒以下のシャッタースピード
	MF級	$\frac{1}{30}$ 秒以下のシャッタースピード
スピードライト		$\frac{1}{60}$ 秒以下のシャッタースピード

適正露出の求め方はスピードライトの使用書に従ってください。



## 整備と環境と事故への対策

カメラに限らず適切な整備と手入れがあって、はじめて期待通りの性能を発揮します。

●カメラは湿気・塩分を嫌います。長い間使わない時は

- 1.皮ケースからカメラを抜き出し
- 2.水銀電池を抜き取り
- 3.湿気のない所に保管します。

水銀電池を長い間、入れっぱなしにしておくと電池からの漏液でカメラの接点をいためます。

●カメラはごみ・ほこりを嫌います。ごみ・ほこりが付いたら

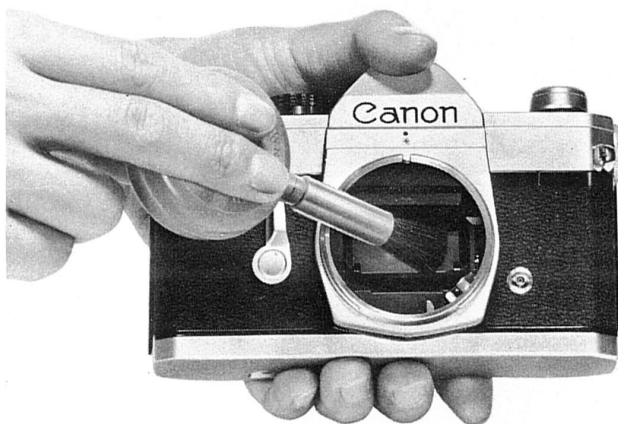
- 1.レンズ・ファインダー・フィルム室などはブローカ刷毛で吹き払い
- 2.落ちにくいよごれはレンズクリーナーで拭き取ります。

拭き方のコツ

- 1.やわらかい布を使います
- 2.液を少量つけます
- 3.レンズの中心から外側に渦巻き状に拭きます
- 4.軽く拭きとります

●カメラを海(水中)に落としたら

→修理はほとんど不能ですが、一応すぐ営業所またはサービスステーションに相談してください。



●紛失・盗難

→すぐ警察へ届け出てください。

最寄りのカメラ店に相談すると、わずかの費用で全国の業者に連絡してくれます。

カメラ・レンズのNo.を憶えるかメモをとっておきましょう。

●寒冷地では

1. 急激に暖かい室内に入ると水分が凝固し、レンズがくもります。（ゆっくり環境温度に慣らします）
2. 寒冷地では電池の性能が劣化するので、できるだけ外気にふれることを避けてください。
3. フィルムが固くなりますので、なるべくフィルムの巻上げ、巻戻しはゆっくり行なってください。
4. カメラにも防寒具を着せましょう。

●高温地では

1. 高温環境下に長時間放置すると故障の原因となります。
2. 撮影が済んだら、涼しい所に早く戻してください。

●高湿下では

1. フィルムの粘着、乳剤面のはく離、感度低下、金属部のサビの発生などがおきます。
2. 乾燥剤を活用しましょう。
3. フィルムを「カメラに装填しっぱなし」は避けてください。

●圧着板の清掃

圧着板に付くごみやほこりはフィルム傷の原因となります。カメラの外観だけでなくフィルム室、圧着板もブロワーなどでこまめに清掃してください。

●直射日光下には置かないでください。

やむをえず置く場合は、必ずキャップをしてください。

- 車のリヤウインドーやトランク内では60℃を越えることがありますのでご注意ください。

# Canon

## キヤノン株式会社 キヤノン販売株式会社

☎108 東京都港区三田 3-11-28

カメラ販売企画部 ☎ (03)455-9353

### サービスステーション

札幌	・(060)	札幌市中央区北三条西 4-1 (第一生命ビル 4 階)	(011) 231-1313
仙台	・(980)	仙台市一番町 1-1-30 (やまと生命仙台ビル6階)	(0222) 66-4151~7
新潟	・(950)	新潟市東大通 1-4-1 (マルタケビル 7 階)	(0252) 43-2111
東京	・(104)	東京都中央区銀座 5-9-9	(03) 573-7834
横浜	・(231)	横浜市中区南仲通り 4-3-9 (石橋ビル 1 階)	(045) 211-1691
千葉	・(280)	千葉市千葉港 4-3 (千葉県私学会館 4 階)	(0472) 43-9648
大宮	・(330)	大宮市桜木町 4-2-18 (共栄ビル 2 階)	(0486) 41-9122
八王子	・(192)	八王子市八幡町 1-1-2 (八王子繊維貿易館 1 階)	(0426) 25-7511
静岡	岡・(420)	静岡市鷹匠 2-7-2 (静米会館 1 階)	(0542) 55-2241
名古屋	・(450)	名古屋市中村区堀内町 4-1 (毎日会館 2 階)	(052) 581-3811
大阪	・(530)	大阪市北区梅田 2 (第一生命ビル 2 階)	(06) 341-9335
京都	・(604)	京都市中京区御池通間之町東入ル (東邦生命ビル 5 階)	(075) 241-0216
金沢	・(920)	金沢市尾張町 1-1-1-14 (住友生命ビル 3 階)	(0762) 32-1711
高松	・(760)	高松市番町 2-1-7-15 (第二讃機ビル 4 階)	(0878) 51-7121
岡山	・(700)	岡山市平和町 4-7	(0862) 22-8228
広島	・(730)	広島市小町 2-3-0 (第二有楽ビル 4 階)	(0822) 44-4615
福岡	・(812)	福岡市博多区博多駅前 4-20-23 (セントラルビル 1 階)	(092) 411-4172

PUB. IJ1024B

0175D5

PRINTED IN JAPAN